

『経営とサイエンス』も注目するサロンメニュー。 カラーバターとチャンティックでできる「色味・質感補正トリートメント」

3月1日発売の『経営とサイエンス』4月号(最新号)では、吉祥寺のUNE ATTACHE代表 安藤守弘さんが特集に登場し、お客様からリピートが相次いでいるメニュー、「色味・質感補正トリートメント」を披露しています。

■色味・質感補正トリートメントとは
色味・質感補正トリートメントとは、トリートメントクリームに塩基性染料を配合したヌーフットのカラーバター、チャンティックを使い、単なるトリートメントではなく、ヘアカラーの褪色やダメージのパスつきを補正して、汚らなくなった髪色を落ち着かせツヤと質感を向上させるトリートメント技法です。



■Before

カラーバター
クリア+ラベンダー
(5:1)の実例。



■After



新生部の白髪染め後、
既染部に色味・質感補正
トリートメント。
カラーバター
クリア+オリーブブラウン
(5:1)の実例。



安藤守弘

(UNE ATTACHE / 東京都武蔵野市)

塩基性カラーの使い方は
「色味&質感補正トリートメント」



■『経営とサイエンス』4月号表紙と
特集のモデルさん仕上がり例



■左: カラーバター200g
右: チャンティック180g

■全てのお客様に勧められる「色味・質感補正トリートメント」

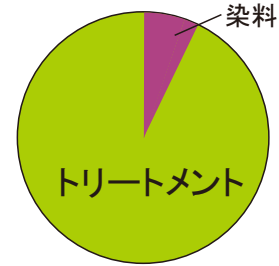
現在カラーバター、チャンティックをお使いのサロンさんでの代表例は、ダメージ毛へのヘアカラー、カブれる人向けのヘアカラー、ビビッドな色にするヘアカラーといったところだと思います。髪色に合わせてカラーバターの色味をクリアで薄めて使っているサロンさんでは「色味・質感補正トリートメント」を既に行っているとのお考えかと思いますが、全く違うのです。クリアで薄める使い方は目的があくまでヘアカラーですので、対象となるお客様は髪を染めたいお客様に限られます。ところが、「色味・質感補正トリートメント」はあくまでトリートメントですので、髪を染めたくないお客様やヘアカラーをしているお客様にさえお勧めできるのです。

■ほんの少し髪色を変えるだけのトリートメントが売れるのか？

現在サロンさんで提供しているトリートメントメニューの価格帯はかなり幅広いものになっていますが、3000円～5000円前後が多いのではないのでしょうか。

最近ではトリートメントの持続性を狙い、2浴式、3浴式なども多くみられますが、得られる効果はツヤ、質感の向上が主なものになります。

色味・質感補正トリートメントに使うカラーバター、チャンティックは純然たるトリートメントでできているので、ツヤ、質感の向上はもちろん得られる上に、髪の色補正という目に見える価値を提供することができるので、お客様は髪の変化を実感することができるのです。現に消費者は、使い続けることで徐々に白髪が目立たなくなるカラートリートメントを通販で購入しており、その市場規模はサロンのカラートリートメント市場を遥かに凌ぐものとなっています。



■カラーバター、チャンティックの成分イメージ図

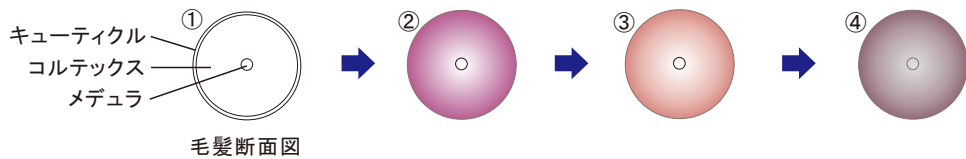
■「色味・質感補正トリートメント」は、毛髪科学の応用から生まれた

『経営とサイエンス』4月号の特集に登場したUNE ATTACHE安藤さんは、酸化染毛剤は毛髪の内部まで染め、カラーバターの塩基性染料は毛髪表面付近だけを染めることをユースフィットの毛髪科学で学び、カラーバターを使ううちに、サロンで行うカラーで染料を毛髪内部まで入れなければならない施術はあまり多くないことに気づいたそうです。

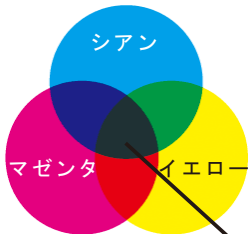
以下、安藤さんが学んだ酸化染毛剤（ヘアダイ）と塩基性染料（カラーバター）の染色、特徴比較。

ヘアダイ（酸化染毛剤）は、繰り返し染めると既染部に色素が重なり暗くなる色が重なると濁り、鮮やかさも失われる

■ヘアダイ（酸化染毛剤）の繰り返し染色イメージ図



- ①／染色前の状態。（毛髪断面図）
- ②／ヘアダイで毛髪の芯まで染色した状態。
- ③／染色後時間が経ち、褪色した状態。褪色しているものの、染料は毛髪内に留まっている。
- ④／繰り返しヘアダイで染めた状態。残っていた染料と新たな染料が混ざることによって暗くなり色味も濁る。

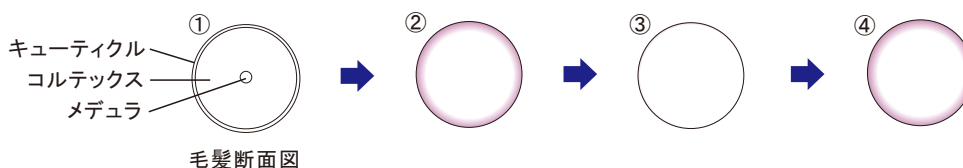


減法混色図
（色の3原色）

染料・色素の色味を混ぜることは「減法混色」と言い、混ぜるほど黒色に近づき、彩度が失われて濁る。

カラーバター＆チャンティックなら、毛髪の芯まで染めず表面付近だけを染めるから、次のカラーリングまでに褪色し、色素の重なり合いが少ない

■カラーバター＆チャンティックの繰り返し染色イメージ図



- ①／染色前の状態。（毛髪断面図）
- ②／カラーバター＆チャンティックで毛髪を染色した状態。毛髪の芯までは染めず表面付近だけを染めている。
- ③／染色後時間が経ち、褪色した状態。元々毛髪内部には染料が入らないので、前回染めた染料が残りにくい。
- ④／繰り返しカラーバター＆チャンティックで染めた状態。色素の残留が少ないので、暗くならず、色味も濁らない。